

【中学校数学】

中学校
数学

本市の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題(A)

- 「数と式」の平均正答率
 - ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。
- 「図形」の平均正答率
 - ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
- 「数量関係」の平均正答率
 - ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

主として「活用」に関する問題(B)

- 「数と式」の平均正答率
 - ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
- 「図形」の平均正答率
 - ・ 全国平均に比べ、上回っている。
- 「数量関係」の平均正答率
 - ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

今回の調査における課題

- 分配法則を用いて計算したり、同類項を整理したりすることや、文字式を利用して考え、その結果を説明すること。
- 柱体と錐体の体積を関係付けてとらえるなど、図形の計量について理解すること。
- 反比例や1次関数など、2つの数量の変化の様子を的確にとらえたり、説明したりすること。
- 得られた情報を樹形図や表などを用いて分類整理し、適切に選択・判断すること。

改善の方向

- 計算過程を振り返り、文字式の計算のきまりを確認したり、条件を変えて考察の範囲を広げたりする指導の充実。
- 実験や実測を通して、体積の量感を確実に身に付けるなど、図形についての理解を深める指導の充実。
- 様々な関数を表、式、グラフなどで表し、それらの特徴を相互に関連付けて理解できるようにするとともに、日常の場面に活用したり、関数となる根拠を説明したりする指導の充実。
- 具体的な事象の観察や実験を通して得られた情報について、情報整理の仕方を考えたり、複数の情報から必要な情報を分類整理したりする活動の充実。

分類	区分	全国との比較(A)	全国との比較(B)
学習指導要領の領域	数と式	ほぼ同程度	ほぼ同程度
	図形	ほぼ同程度	上回っている
	数量関係	ほぼ同程度	ほぼ同程度
問題形式	選択式	ほぼ同程度	ほぼ同程度
	短答式	ほぼ同程度	ほぼ同程度
	記述式		ほぼ同程度

※ 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。